

氏名	柚 木 靖 弘		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博甲第 1392 号		
学位授与の日付	平成7年3月31日		
学位授与の要件	医学研究科 外科系外科学（一）専攻 （学位規則第4条第1項該当）		
学位論文題目	Effects of Resection of Celiac and Pyloric Branches of Vagus Nerve on the Interdigestive Motor Activity of the Upper Digestive Tract and Biliary Tree（上部消化管と胆道系の空腹期運動に及ぼす迷走神経腹腔枝と幽門洞枝切断の効果）		
論文審査委員	教授 清水 信義	教授 辻 孝夫	教授 菅 弘之

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

消化管には空腹期に特徴的な蠕動運動が生じることが良く知られているが、胆嚢や Oddi 括約筋にも同様の空腹期運動が観察されている。また、この空腹期運動が迷走神経の支配を受けることも報告されている。今回の研究では迷走神経のどの分枝がこの空腹期運動に対して影響を与えるかについて検討を行った。

無処置犬の空腹期には胆嚢頸部やOddi括約筋部にも胃幽門部や十二指腸下行脚部の空腹期蠕動運動（IMC）と連動する空腹期運動が認められた。迷走神経腹腔枝を切断したイヌにおいては無処置犬と同様に胃幽門部・十二指腸下行脚部・胆嚢頸部・Oddi括約筋部に連動する空腹期運動が認められたが、その周期は有意に延長していた。一方、迷走神経幽門洞枝を切断したイヌにおいては胃幽門部・十二指腸下行脚部・胆嚢頸部・Oddi括約筋部の空腹期運動に影響は見られなかった。

これらのことから、迷走神経腹腔枝が胃幽門部・十二指腸下行脚部・胆嚢頸部・Oddi括約筋部における空腹期運動を調節していることが示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本論文は、消化管の空腹期に特徴的な蠕動運動（IMC）について研究したものであるが、犬を用いて迷走神経に処置を施さない群（無処置群）と、腹腔枝切断群、幽門洞枝切断群を作成し、術後3週目に意識下で空腹期の消化管運動を観察した。その結果、腹腔枝切断により、胃幽門部、十二指腸下行脚、胆嚢頸部、Oddi括約筋などの空腹期運動の周期の延長が認められたが、幽門洞枝の切断によっては、著名な変化は観察されなかった。このことより、迷走神経腹腔枝は、空腹期蠕動運動の周期性を contralすると考えられるとの、新しい知見が得られた。よって、本論文は博士（医学）に値するものと評価した。